（別紙4）　　令和　1　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1291600094		
法人名	社会福祉法人　豊立会		
事業所名	グループホーム　まんざきの家　玲光苑		
所在地	千葉県成田市松崎259		
自己評価作成日	平成31年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和1年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の生活歴や出来る事や出来ない事、得意な事を把握し、暮らしの中でその能力を発揮できるように支援しています。生活面では特に毎日が画一的なものにならないように運動や制作、外出の機会を設け、日課は決めずご本人の希望を大切にしています。苑庭で年間を通じた野菜作りをしており、職員とご利用者様で協力して収穫した野菜を食材に取り入れ共同で調理し、達成感や満足感に繋げています。入所された事で社会との関わりが途切れないよう、地域の行事に積極的に参加したり、施設側で企画した行事に地域の方を招き交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームまんざきの家玲光苑」は小規模多機能事業所が併設していると共に、同法人運営の特養老人ホーム・デイサービスセンター等、各種介護保険サービス事業所も近隣にあり、入居者のニーズに合せた柔軟で適切なサービス提供及び地域におけるケアの拠点として活動している。施設は地域交流に力を入れており、地域行事への参加や出店・認知症カフェの開催・ボランティアの受け入れ・地域の商店の利用等、様々な形で地域住民と接点を持ち、入居者の生活活性化に繋げている。また、入居者の日々の様子や行事開催時の写真入りで掲載した、季刊誌「まんざきこ～よ」を定期的に発行しており、ケアサービスの取組み状況を家族及び地域の人達に伝えている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人基本理念を掲げ共有しているとともに、安らぎのある家庭的な環境の中で、お一人おひとりに寄り添い安心して暮らせる生活を支援、利用者の立場に立ち思いやりのある暖かいケアと地域住民や地域の関連機関との連携・協力を理念に掲げ、地域でその人らしく暮らせる為の支援を行っている。	「愛情・尊敬・信頼」と言う法人理念を掲げており、施設内に掲示すると共に、法人のホームページや季刊誌等に記載する等、内部及び外部の人達への周知を図っている。研修や会議等を通じて、全職員に理念の意識付けを行い、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。地区の祭りや行事への参加や小学校や高校生との交流もある。今年度も地域の方と「筍堀り交流会」を開催し親交を深めた。地域の方々が自由に立ち寄れる環境を整え、顔なじみの関係作りへと繋がっている。	自治会に加入しており、日頃から近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。地域行事への参加や出品及びボランティアの来訪もあり、地域交流の機会は多い。また、職場体験及び専門学生の実習を受け入れており、様々な形で世代間交流や地域貢献に取り組んでいる。今年度より、地域包括支援センターと共同で「認知症カフェ」を開催しており、地域高齢者のケアサービスの推進を図ると共に、認知症ケアの啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の敬老会やイベントで、健康体操を実施している。また、今年度は地域包括支援センターと共同で「認知症カフェ」を開催。地域の社会資源として活用して頂けるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動等の実績の報告の他、利用者、家族からのご意見を始め、地域の区長、民生委員、老人クラブ会長、学校の先生等の多方面からご意見を頂き、運営に活かしている。	運営推進会議は、年4回開催しており、市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域区長・学校長・老人クラブ会長・入居者・家族等が出席している。会議では、スライドショーを活用しながら施設の活動報告を行う等、施設理解の促進を図ると共に、挙がった意見・要望等は、サービスの向上に活かしている。また、消防避難訓練や身体拘束の状況報告等も議題として取り挙げており、、参加者への協力体制強化を働きかけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、活動の様子を伝えると共に、より良いサービスの為の相談、助言を頂いている。また、毎月行政を交えた地域密着連絡会に参加をし、報告と助言を頂いている。	日頃から市に対し、業務における相談や報告を随時行う等、連携を深めている。成田市地域密着事業者連絡会に参加し、市や同業者との意見・情報交換を行う等、地域の問題解決に向け協力関係構築を図っている。その他、市担当者が運営推進会議に参加しており、入居者の生活状況やケアサービスの取組状況を伝える等、理解促進を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行った実績は無く、日頃から身体拘束にならないように意識して対応をしている。今年度も、研修予定を組んでいる。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。身体拘束廃止に関する指針の整備や委員会の設置及び委員会の定期開催等、適切な支援方法を策定している。施設方針や取り組み状況については、運営推進会議時の議題に取り上げる等、内外の人達への周知及び理解促進を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、人権について外部研修に参加して虐待防止に関しての意識を高めた。入浴又は、更衣時に、不審な内出血や外傷がないか観察を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について部署内研修を行い職員の知識を高めた。成年後見制度については、現にこの制度を利用している入居者もいる為、後見人の方と話し合う機会を多く設け、その必要性について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、理念、サービス内容、料金、緊急時の対応等を説明し、充分な理解を得ると共に納得をして頂いてから、契約を行っている。また、法改定時は重要事項説明書を改定しその都度説明を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用者、ご家族に参加していただき、意見、要望を伺っている。会議録は職員に閲覧し情報の共有に努めている。また、ご利用者は日々の生活の中で、ご家族は面会時等に意見を伺い、その意見を取り入れ反映している。	家族の来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通じて、意見や要望等を確認している。挙がった意見や要望においては、会議や連絡ノート等を活用し、全職員で検討する等、適切な支援に繋げている。毎月、施設活動や入居者の様子を綴った月次報告と季刊誌「まんざきさこ-よ」を入居者家族へ送付しており、施設理解の促進及び信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業方針作成時には、職員から意見や提案を聞き作成をしている。また定期的に会議を開催し話し合いの場を設けるとともに、随時、相談や報告を受け運営に反映している。	定期的に運営会議・グループホーム会議・まんざき会議等を開催すると共に、職員の個人面談も実施しており、職員からの意見・要望を確認する機会を設けている。また、有給・希望休の考慮・外部研修への費用負担等、要望に配慮した働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時面接を実施し、各自の状況を把握するとともに、相談しやすい環境作りに努めている。また、労働時間帯などは、家庭の事情等考慮し、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で実施するリーダー研修・中堅研修・全体で行う研修会の参加の他、個々の希望を聞き、外部の研修に参加ができている。毎月、部署内でミニ研修を行い、参加できない職員へは資料を回覧する事で情報の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着連絡会にて、成田市・栄町の同業施設と情報交換等行い、合同での勉強会も企画・実施している。その他、成田市介護保険事業者連絡会開催の研修に参加し、同業者の方と交流をすることでネットワークづくりへと繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、出来る限り利用者本人に見学をしていただき、利用時には不安なことや分からないことがないように説明を行い、安心して生活ができるように、環境を整備している。また、利用者の話を傾聴することにより不安を和らげることが出来るように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、ご家族から生活状況や身体状況など様々な介護の困難さをじっくりと聴くようにしている。また、利用後にも電話や面会時はもちろんのこと、毎月報告書にて状況を伝えて、関係が途絶えることのないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な視点からアセスメントを行い、本人が望んでいる生活とご家族が望まれている生活を理解し、可能な限り要望に答えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の生活歴や、出来ることや出来ないこと、得意なことを把握し、暮らしの中でその能力を発揮できるように支援している。日常生活で出来る事は職員と一緒に行い、コミュニケーションを常にとって信頼関係を築くよう務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からご利用者の様子を報告し、必要に応じて随時支援方法の相談を行い、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会の連絡調整を行い出来るだけ関係継続ができるように支援をしている。	希望に応じて、知人・友人・家族の面会を随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮している。また、馴染みの商店への外出及び併設施設の利用者との交流等、様々な形で馴染みの人や場所との関わりを継続できるよう取り組んでいる。要望に応じて、個別や少人数での支援も行っており、一人ひとりの関係継続も大事にしている。その他に、地域行事や認知症カフェへの参加等、新たな馴染みの関係構築にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにコミュニケーションが取れるように職員が間に入り、会話をつなげたり生活の中で関係性を深められるよう支援を行っている。また、定期的に交流を深められるような食事会やお茶会などを企画している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されたご家族でも気軽に施設を訪れて、その後のご様子などを伺える関係性を築けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴、習慣、今後の意向の聞き取りを大切にしている。出来ていた事の継続やご家族や友人、地域との途切れない関係性作りの継続を心がけている。また、声掛けを多く行い、言葉や表情から心情を察したり、普段の会話の中で聴いたりと、意思の把握に努めている。	本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受け、情報の把握に努めている。また、会議や申し送り、個人シート等を活用して、全職員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や日々のコミュニケーションを重ねることで、生活習慣やリズム、価値観を把握し、サービスに活かせるように努めている。その他にも、ご家族の面会時に馴染みの暮らし方や生活環境などを聴き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活のリズムを大切にしながら、日々の会話や表情、バイタルなどを参考にして、常に心身の現状把握に努めている。日々の状態の変化は、ケース記録・看護記録に記載、また申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状況について随時、介護職、管理者、計画作成者、看護師間で話し合いを持ち、また会議での検討を行い、情報の共有に努めている。また、随時ご家族へ相談・報告を行い、協議の上で、介護支援方法を決めている。	日頃から、アセスメントやコミュニケーションを通して、情報の収集及び共有に努めている。本人や家族の意向を確認した上で、会議で意見交換や検討を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを実施する等、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録、特記は業務日誌と職員連絡ノートに重複して記録し、職員間の情報共有とモニタリング、介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活習慣を大切にし、また毎日の生活の中で出た要望を取り入れながら、外出支援や活動内容を決めている。また、ご家族が困難な場合は受診同行も柔軟に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館への行き来を散歩コースに取り入れるなど資源を活用しながら、昔からの友人や顔なじみの方々、また地域の方々との交流を持ち、暮らしを楽しむことができるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医へご家族と共に受診をされている。家族対応が出来ない場合は、施設で送迎を行っている。急変時などの場合は、迅速に家族と連絡を取り、必要に応じて、協力病院への受診ができるように体制を整えている。	必要に応じて歯科医の往診を実施している。また、希望の医療機関への受診が可能となっていると共に、併設施設の小規模多機能ホームの看護師による健康管理や医療面における助言等も行われており、入居者や家族の安心に繋がっている。家族が通院の付き添いを行う際に、日々の生活の様子や特記事項等を記した報告書等を作成しており、医療機関と情報交換が円滑にできるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝と必要時にバイタル測定を行っている。入浴時には必要な処置や身体状態の観察、排泄状況の確認、服薬管理など、併設した小規模多機能の看護師と情報を共有し、受診が必要な時はご家族へ伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日々の様子や急変時の様子を伝えて医療との連携を図っている。また、日頃より協力病院の入退院支援室を訪問して関係性作りに努めている。定期受診時もバイタル表や日々の様子の記録を病院へ渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、毎日の様子をご家族へ連絡し、また不測の事態にも協力病院との連携をとり、対応ができるようにしている。さらに、特養などへの入所支援が出来る体制がある。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族への意向確認や同意も得ている。重度化・終末期においては、医療機関と24時間の協力体制が構築されている。また、重度化した場合や終末期支援に向け、同法人の関係機関とは連携体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って対応をしている。併設している小規模多機能の看護師と連携を取ると共に迅速に、ご家族に連絡を入れて対応を協議し、必要時には主治医または、協力病院にすみやかに連絡し搬送している。AEDの設置も行い職員に対する研修も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の方にも参加して頂いて避難訓練を行ない、地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議を通して、日頃の地域との交流の中で災害時に協力していただけるように呼びかけている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置及び災害時に備えている。消防避難訓練を年に2回実施しており、訓練では消防署立会い訓練や夜間想定訓練を行う等、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、運営推進会議を通じて、災害時に支援や協力が得られるよう、市や地域への働き掛けも行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念である愛情・尊敬・信頼の気持ちを常に持ち、プライドを傷つけない声掛けと対応をしている。自分がされたい介護、されたくない介護を常に意識し、人生の先輩として尊敬の心で対応を行っている。	全職員が理念に基づき、入居者一人ひとりの尊厳を意識した対応に努めている。個人情報についは、個人ファイルの取扱・目的・保管場所・写真掲載の承認・個人名や会話内容の工夫等、プライバシーの確保徹底に取り組んでいる。また、内部研修や会議等で制度や重要性についての周知・指導が行われており、人権意識の理解浸透を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声掛けを多く行い、本人の思いや希望を聴くように心掛けている。言葉で上手く伝えられない方には、表情やしぐさを観察し、訴えに気が付けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを大切にし静養時間をもうけたり、お好きな時間に居室で過ごされたりと、日課は決めないでご本人の希望を優先している。また、日々の中で何がしたい等要望を聞き、活動に取り入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの習慣を大切にし、使い慣れたブラシや石鹸、化粧水などで身支度を整えて頂いたり、今までの着慣れた洋服を持参され着ている。毎月希望に合わせて、美容師が来苑し本人の希望に沿った整髪を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられるように、その時期の旬な食材を取り入れ、行事と合わせ芋煮会や焼き芋の会なども行っている。調理やおやつ作りを一緒に行い食事も一緒にしている。準備から片付けも役割を持ち行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けを共同で行っている。食材や献立は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。定期的に外食会や行事食の実施・特別食の提供・手作りおやつ等、食に対する楽しみを支援している。他にも、「フリーメニュー」の日を設けており、計画から食事提供までの全工程を入居者主体に行われており、入居者の張り合いや自信、更に心身の維持や向上に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に合わせて食事形態を変えている。水分摂取量は24時間チェック表を使用して管理している。また、声掛け介助のほか、摂取量が少ない際は、ご本人の好む物や慣れ親しんだ食べ物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員がその方に合わせて口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は、職員が声掛けし、必要に応じて介助している。口腔状況に応じて、ご家族と相談し、訪問歯科の利用を行い、治療やアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツに排泄される前にトイレで排泄が出来るタイミングを見計らって、トイレ誘導を行うか、また尿便意のサインを見逃さないように努めている。また、夜間帯のみリハパン等の使用を行い、日中はできる限り布パンツで過ごして頂いている。	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、適度な運動や散歩を日課としている。水分量もチェックをし多く摂って頂けるよう努めている。状況に応じて、ヨーグルトや好みの飲食物に変えたりと工夫をしている。また、食事のバランスを考え、繊維物の多い物を使った手作りおやつ等を一緒に作り提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じて毎日入浴されたり、2～3日に1回入浴されるなど、個々の対応をしている。また、体調によって臨機応変に入浴の日や時間帯をずらして支援を行っている。	入浴は定期的に行われてはいるが、入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施する等、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその日の体調、ご本人の希望に沿って支援を行っている。日中でも静養を促したり、就寝時寝付けない方などには温かい飲み物を提供したり、お話を聞き安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の度に薬情書を確認、管理している。一人ひとりの薬をケースに仕分けし、日付と氏名を確認してから、誤薬が無いように服薬介助を行っている。確実な服薬が出来たかどうか、口に含む際、服薬後も口腔内や状態の変化を観察している。処方が変更になった際は、状態を観察し、ご家族に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、得意なことを継続できるよう支援をしている。農作業や家事を行ったり、また地域に出ての交流や外食等を活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、希望を聞きながら外出活動を行っている。慣れ親しんだ場所に散歩や花見に出掛けたり、地域で開催のお祭りやイベントに出掛けている。外出の際は、ご家族に声掛けも行っている。また、外出回数に偏りが無いよう、外出チェック表を作成して不公平のないように努めている。	日頃から散歩・買物・ドライブ等を行っている。また、お花見や地域イベントへの参加等、季節や状況に応じた、様々な外出機会が計画・実施されている。敷地内の庭を整備し、気軽に外の空気を楽しめるよう、活動の場所として活用している。他にも、併設の小規模多機能施設とは訪問や合同開催のイベントへの参加を通じて、施設外の人達と触れ合う機会となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、トラブルが無いように配慮している。また、必要に応じてご家族に持参して頂き、買物ではご本人がご自身で支払いができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいとの希望があった場合には、プライバシーが配慮された部屋で、電話がかけられるように支援している。また、手紙のやり取りもプライバシーを確保し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースについては、家具等の置き場に配慮し、移動しやすいスペースを確保している。また、ご利用者様が作った季節に応じた制作物を壁画に飾ったり、日頃の様子を写真で飾り、面会に来られた方に見て頂けるようにしている。	施設はバリアフリー環境となっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、共有スペースは明るく開放的な雰囲気作りがなされており、ソファーやテーブルも設置され、入居者一人ひとりがくつろげる環境となっている。他にも、季節感を感じる飾り付けを施し、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のリビングの他、静かな環境を好む方や、ご家族とゆっくりと話がしたい方には、居室にご案内している。また、気の合った方同士で同じテーブルに座っていただき、お茶やお食事を楽しんで頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や寝具、小物などを持参されている。また可能な限りご自宅のお部屋と同じ環境になるように配慮しており、床に畳を敷きたいといったご要望にもお応えしている。	希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、テレビやポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、プライバシー確保を意識した環境作りを行うと共に、洗面台・エアコンも備え、利便性に優れた設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレ前には場所を確認出来るようプレートで表示している。廊下やトイレ、浴室には手摺りを取り付けて、安全確保及び自立への配慮をしている。リビングや廊下等も移動がしやすいよう環境整備に努めている。		